

ほんまよせぎびじゅつかん 本間寄木美術館



● 歴史

箱根の寄木細工の始まりは、江戸時代後期(1750年頃から1867年)と

言われています。つくった人は、石川仁兵衛という人で、箱根町の細宿で生活し

ていた人です。箱根の南にある細宿は当時、立場と呼ばれた、旅人の休憩場所

の中でも大きく、多くの人々で賑わっていました。そこで、お土産として人気でし

た。江戸時代末から昭和の初めまでは、非常に高価な美術品として扱われ、

海外などとも取引されていたといわれています。

当時の寄木細工は今のような複雑な木の色を組み合わせた作りではなく、

一種類の木で作られ、シンプルな模様の物でした。それから、現代のような多様

な木を組み合わせ、複雑だけでも繊細なデザインになり、明治時代以降は、おもちゃなども製作され、さらに親しまれる木工品として全国的に広がっていきました。

箱根奇木細工は昭和59年5月に大臣から伝統的工芸品として指定され、国内だけではなく、海外からも人気で多くの観光客からお土産として好まれていきます。

また、毎年お正月に100年以上前から行われる箱根駅伝では、往路優勝チーム(東京から箱根に向かう初日)に渡されるトロフィーは奇木細工で作られています。箱根を代表する物のひとつといえます。

● 地域との関わり

この本間奇木美術館は、そんな歴史ある大切な奇木細工を守り、技術の継承の参考にとの思いから、伝統工芸士の本間昇さんが、長い年月をかけて収集したコレクションを展示する美術館です。江戸時代に作られた飾り棚など、ほかでは見ることのできない珍しい逸品を約200点も展示しています。また、季節ごとにしか見られない特別展も行って、お正月の七福神から始まり、雛人形や五月人形、大名行列など展示されています。

工房では実際に作業する職人さんの技も観れたり、自分でも作れる体験教室も行っています。

● ^{かんれん}**関連するスポット**

くまのじんじゅ むかし はこね かんこう き たひと かか
●熊野神社…昔から箱根に観光に来た人たちと関わりがあります。

はこね ゆもとけんぱん むかし はこね かんこう き たひと かか
●箱根湯本見番…昔から箱根に観光に来た人たちと関わりがあります。